

第3学年	教科名	使用教科書	光村図書 国語3	担当教員	玉田 昇吾
------	-----	-------	----------	------	-------

<b>【身につく力】</b> <b>豊かな「自己表現力」</b> — 語彙力を生かし、適確に自己の思いを表現する力 —	評価	評価の観点	評価の方法
	知識・技能	言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけ、様々な場面で活用する力を取得しているかを評価する。	・定期テスト ・小テスト
	思考・判断・表現	言語を通して正確に理解したり適切に表現する力や、言語を手がかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力がついていないかを評価する。	・定期テスト ・単元末などに実施する「学習した事項を活用して取り組む」課題
	主体的に学習に取り組む態度	授業の課題や目標を達成するために自分が工夫して取り組んだことや意識したことを振り返ることができるかや、学習によって得た新たな見解や自身の変容について捉えることができるかを評価する。また、課題に取り組んだり、目標を達成したりするために、粘り強く取り組んでいるか、また、その経過のなかでの自身の変容(調整する力)について評価する。	・振り返りシート ・課題への取り組み方

**【授業の進め方(授業のポイント)】**

- 物語文や論説文、古文の読み取りを通して様々な人々の経験や考え方に触れ、時に寄り添い、時に批判をしながら、自身の「考え方」を形にしていきます。
- 授業の中で触れる漢字や文法、ことわざなどを身につけることは、自身の「考え方」をより豊かに、正確に表現するために必要なものです。「ただ暗記して終わるもの」ではなく、「日常でどのように使うか」を考えながら身につけていきましょう。
- 国語科は「正解が一つとは限らない教科」です。それだけに、「自分の考え方を表現する力=豊かな自己表現力」が求められる教科です。この1年間で、この「豊かな自己表現力」を身につけてほしいと思います。

**【家庭学習について】**

- ・文章を読んで意味が分からなかった語句の意味調べをしておくだけでも、【学習目標】の(1)の達成に繋がります。
- ・本や新聞などの文章を読んで様々な人の考え方に触れ、それについて思いを巡らせることが(2)の達成に繋がります。ぜひたくさんの方の文章に触れてください。
- ・語彙力・漢字力を高める努力を惜しまずに取り組もう。

1学期	2学期	3学期
①世界はうつつくいと ②握手 ③文法(付属語) ④学びて時に之を習ふ —「論語」から ⑤説得力のある構成を考えよう ⑥相手や場に応じた言葉遣い ⑦作られた「物語」を超えて ⑧思考のレッスン 具体化・抽象化 ⑨論理の展開を意識して書く ⑩熟語の読み方 ⑪俳句の可能性 ⑫俳句を味わう ⑬和語・漢語・外来語 ⑭語彙を豊かに	①実用的な文章を読む/報道文を比較して読む ②挨拶 一原爆の写真によせて ③故郷 ④慣用句・ことわざ・故事成語 ⑤推敲 論理の展開を整える ⑥漢字の造語力 ⑦複数の意見を読んで考えよう ⑧考えを効果的に伝えよう ⑨初恋 ⑩古今和歌集 仮名序 ⑪君待と 一万葉・古今・新古今 ⑫夏草 —「おくのほそ道」から	①書写 ②つながる古典/古典名作選 ③それでも言葉 ④漢字のまとめ ⑤合意形成に向けて話し合おう ⑥温かいスープ ⑦アラスカとの出会い ⑧律儀な桜 ⑨わたしを束ねないで

第3学年	教科名	使用教科書	「中学生の歴史」「中学生の公民」(ともに帝国書院)	担当教員	大内 仁之輔・佐々木 啓輔
------	-----	-------	---------------------------	------	---------------

付けたい 資質・能力	<h1 style="text-align: center;">社会参画力</h1>		評価	評価の観点	評価の方法
			知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会的事象について(～は～である)理解し、その知識を身につけている。</li> <li>・用語・語句や特色・意味など概念に関わる知識</li> <li>○社会的事象などについて調べ、まとめる技能をつけている。</li> <li>・課題の解決に必要な情報を集める。【収集する】</li> <li>・収集した情報を見方・考え方を働かせて読み取る【読み取る】</li> <li>・読み取った情報を課題解決に向けてまとめる【まとめる】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テストの点数</li> <li>・ワーク</li> <li>・パフォーマンス課題</li> </ul>
			思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>○【思考力・判断力】に関わって</li> <li>・社会的事象をとらえ、社会的事象の意味や意義、それぞれの関連について、考察する。</li> <li>・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想(複数の立場や意見を踏まえて選択・判断)している。</li> <li>○【表現力】に関わって</li> <li>・適切な資料・内容や表現方法を選び、根拠や理由を明確にして、論理的に説明する。</li> <li>・仲間との話し合いで、仲間の主張を踏まえたり、取り入れたりして、立場や根拠を明確にして主張・議論している。→社会参画の視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テストの点数</li> <li>・パフォーマンス課題</li> </ul>
			主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習単元・課題について主体的に調べ分かつて課題を意欲的に追究している。</li> <li>・単元の「見直し」をもつ</li> <li>・他者と協働しながら粘り強く考える(試行錯誤しながらも考えを持つ)</li> <li>・振り返りて学んだことの意味について考える。</li> <li>○よりよい社会を考え、学んだことを生かそうとする。</li> <li>・学んだことを、社会生活にどう生かそうとするか。</li> <li>・よりよい社会を創るために、自分で「新たな問い」を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り</li> <li>・パフォーマンス課題</li> </ul>

【授業の進め方(授業のポイント)】

\*基本的には、教科書に沿って教科書のページ順に学習する。

\*進度の目安は1時間で見開き2ページを進めることを原則とする。

\*ノートを書く際に、「疑問に思ったこと」、「学んだこと」など、個人で考えることを積極的にメモを取って大切にすること。

→自分で考える習慣が自分を「深化」させ、振り返りを書くための手立てとなる。

【家庭学習について】

\*自主学习ワークと3年間の総復習は、1つずつ○つけます。

・まずは自分の力で取り組むこと。漢字で分からないものは、かな交じりで書く。

・その後、教科書を見て分からなかったところを解く。→正しい漢字に訂正する。

・最後に答え合わせをして、教科書を見て分からなかった部分はチェックしておく。

\*学習したことを多面的につなげるため社会的事象について、常に「アンテナ」を高く持つこと。

1学期		2学期		3学期	
<b>歴史的分野</b> ・第一次世界大戦と民族独立の動き ・高まるデモクラシーの動き ・戦争に向かう世論 ・第二次世界大戦の惨禍 ・敗戦から立ち直る日本 ・世界の多極化と日本の成長 ・現在に続く日本と世界 パフォーマンス課題 現在の社会を作るきっかけとなったできごとは?	・第一次世界大戦が起こった背景を、世界の動きと日本との関連から読み取る。 ・第一次世界大戦後にデモクラシーの考えが広まった原因を説明する。 ・世界恐慌に対する各国の対策と対立の深まりがどのように第二次世界大戦へと突き進んだか述べる。 ・平和が大切な理由を日本が戦争を拡大した理由と結果から説明する。 ・第二次世界大戦後の日本において、どのような目標(民主化や平和主義など)に基づいて改革が進められたか述べる。 ・復興をとげた日本が、国際社会でどのような役割(経済的な強まり)を担うようになったのか、その経緯を述べる。	・民主主義と日本国憲法 ・基本的人権の尊重 ・法の支配を支えるしくみ パフォーマンス課題 公共の福祉と財産権の対立 ・民主政治と私たち ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち パフォーマンス課題 向日市への提案 模擬裁判 ・経済のしくみと消費 ・企業と生産 ・市場経済と金融のしくみ パフォーマンス課題 悪質商法 企業の企画書	・法に基づく政治が大切な理由を説明する。 ・日本国憲法で基本的な人権が保障されている理由を歴史的背景から説明する。 ・日本国憲法に基づく政治によって、国民の自由と権利が守られていることを述べる。 ・公正な世論を形成し、民主政治を実現するために、メディアリテラシーを身につける必要性や公正な選挙を行うために求められていることを説明する。 ・国会、内閣、裁判所がどのような役割を担っているかそれぞれの権力と関連させながらまとめる。 ・地方自治や民主政治を発展させるために、わが町への社会参画を行う。 ・経済活動を活発にするための消費者の役割や責任について説明する。 ・市場経済のしくみや金融の役割、日本銀行の金融政策について説明する。 ・消費者の一人として、どのような役割や責任を果たすべきか自ら追究する。 ・企業はどのような役割や責任を果たすべきか説明する。	・財政と私たち ・日本経済の課題とこれから ・国際社会のしくみ ・地球的課題とその解決 パフォーマンス課題 紛争・戦争、開発援助	・政府がどのような役割を果たしたら、私たちの生活や福祉が向上するのか説明する。 ・日本経済に求められていることはなにか説明する。 ・国際社会においてどのような国際協調が必要なのか世界における日本の立場を踏まえまとめる。 ・誰一人取り残さない国際社会にするために私たちができることは何か自ら追究する。
<b>公民的分野</b> ・現代社会の特色 ・私たちの生活と文化 ・現代社会をとらえる枠組み パフォーマンス課題 効率と公正	・冷戦終結後の日本と世界の変化を、現代と比較しながら説明する。 ・現代日本の社会について情報化、グローバル化、少子高齢化が見られることを説明する。 ・日本の文化を知り、伝統文化を受け継ぐ必要があるのはなぜか説明する。 ・社会生活において、きまりを守る意義は何かを説明する。				

第3学年	数学	使用教科書	新編 新しい数学3(東京書籍)	担当教員	小西 遼・竹谷 範子
------	----	-------	-----------------	------	------------

付けたい 資質・能力	論理的思考力	評価	評価の観点	評価の方法
		<b>【身に付く力】</b> ・筋道立てて考える力、見通しを持つ力 → 計画性 ・単純化、一般化して考える力 → 効率的・合理的な考え方 ・深く考える力 → 思慮深さ・粘り強さ	<b>知識・技能</b> ・基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	定期テスト 小テスト
<b>【学習の目標】</b> ・数の平方根、多項式と二次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数 $y=ax^2$ 、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につける。 ・数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。	<b>思考・判断・表現</b> ・数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力を身に付けている。 ・図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に表現する力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 ・標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を身に付けている。	定期テスト 小テスト レポート課題(内容)		
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に活かそうとしている。 ・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。 ・多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしている。	レポート課題(振り返り) 自己評価表		

**【授業の進め方(授業のポイント)】**

- ・ノートの取り方を工夫する。 → 黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや気づいたことも記述する。
- ・分からないことを質問する。 → 授業で分からなかったことは、そのままにせず必ず質問をして理解する。
- ・授業の振り返りをする。 → 授業の振り返り(自己評価表に記入)をすることで、授業のポイントだけでなく、今の自分の学習状況やこれからの学習の進め方についても振り返る。

**【家庭学習について】**

- ・家庭学習を習慣化する。(特に、復習を大切にする。)
- ・問題を解くときは、後で間違えた箇所が分かるように途中式を書く。
- ・基本的な問題を繰り返し練習する。

1学期		2学期		3学期	
1章 多項式 1節 多項式の計算 2節 因数分解 3節 式の計算の利用  2章 平方根 1節 平方根 2節 根号をふくむ式の計算 3節 平方根の利用  3章 2次方程式 1節 2次方程式とその解き方 2節 2次方程式の利用	・単項式と多項式の乗法の計算と比べ、式の展開や因数分解をする方法を考察し、計算できる。 ・自然数に成り立つ性質について、乗法公式や因数分解を利用して、説明できる。また、いつでも成り立つ数の性質を説明するために、文字を用いる必要があることを記述している。  ・文字式の計算方法と比べ、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し、計算できる。 ・コピー用紙の倍率について、平方根を含む式の計算を利用して、説明できる。	4章 関数 $y=ax^2$ 1節 関数 $y=ax^2$ 2節 関数 $y=ax^2$ の性質と調べ方  5章 相似な図形 1節 相似な図形 2節 平行線と比 3節 相似な図形の面積と体積  6章 円 1節 円周角の定理 2節 円周角の定理の利用	・関数 $y=ax^2$ として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表・式・グラフを互いに関連付けながら、表現することができる。 ・自由落下の実験データから、関数 $y=ax^2$ の関係にあるものを見つけ、説明できる。また、問題解決の過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり活用しようとしている。  ・相似な図形の性質を用いて、対応する辺の長さを計算できる。平行線と線分の比の性質を用いて、対応する辺の長さを計算できる。 ・相似な図形の性質を用いて、角の二等分線の定理を説明できる。	7章 三平方の定理 1節 三平方の定理 2節 三平方の定理の利用  8章 標本調査 1節 標本調査	・三平方の定理と比べ、直角三角形になる条件を考察し、判別できる。 ・高い建物が見える範囲について、三平方の定理を用いて、説明できる。  ・標本調査の方法や結果を批判的に考察し、全数調査とどちらがふさわしいか判別できる。

第3学年	教科名	使用教科書	未来へひろがるサイエンス3(啓林館)	担当教員	川崎 楽 橋元 秀太
------	-----	-------	--------------------	------	------------

<b>付けたい 資質・能力</b>	<b>論理的思考力</b>	評価	評価の観点	評価の方法	
		<b>【身に付く力】</b> ・主体的に自然事象と関わり、それらを科学的に探求しようとする態度。 ・自然の事物・現象から仮説や観察・実験を計画する力。 ・計画した仮説や観察・実験を実行し、処理する力。 ・観察・実験の結果を分析し、比較したり、関係づけたりする力。 ・仮定・計画したこと、考察・推論したことを振り返り、論理的に説明したり、まとめる力。 ・学んだことや導き出したことを次の課題や、日常生活に活用しようとする態度。	知識・技能	見通しを持って観察、実験などを行い、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解するとともに、探求の過程を通して科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけている。	・定期テスト ・実験レポート ・パフォーマンス課題
			思考・判断 ・表現	仮説や疑問を意識しながら、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果などを分析して規則性や関係性を見だし表現している。また、仮説や結果を比較し、考察したものがより信頼性の高いものになるように振り返り、修正し、図や自分の言葉で表現している。	・定期テスト ・実験レポート ・パフォーマンス課題
			主体的に学習に 取り組む態度	身近な自然での体験や日常生活での科学の有用性の実感など、自然の事物・現象に進んで関わり、主体的に探求しようとしている。生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。科学技術の発展と人間生活の関わりを捉え、科学技術を利用しようとしている。また、仮説や結果を比較し、考察したものがより信頼性の高いものになるように振り返り、修正し、図や自分の言葉で表現しようとしている。	・振り返りシート(学習前と学習後の比較) ・パフォーマンス課題 ・問題集 ・授業ノート

**【授業の進め方(授業のポイント)】**

・ノートの取り方を工夫する。  
 評価欄に書かれているノートですが黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや気づいたことも記述するように意識してください。家庭での学習の際に、どこが重要かが自分で分かるようにマーカーを使用した強調、ポイントのまとめ欄を作成する等、自分だけのノートが作成できるとういでしょう。

・観察・実験レポートや課題  
 観察・実験を行った際にレポート課題を出します。その際、授業内でおこなったことを忘れないようにできる限り当日に仕上げることをおすすめします。また、考察は自らが考え察したことを記入するものであるため、他の人の記述をまねするのではなく、自ら考えたことを書くようにしてください。考察での自身の考えが正しいか、間違っているかは重要ではありません。観察・実験を通して考えたことを自らの言葉で表現する力を身につけて欲しいと考えています。また、学習した結果、観察・実験の結果や考察に修正が必要だと感じた場合は都度、再考していきましょう。振り返ったときに間違ったままだと正しい知識は得られません。よりよい結果や考察に近づくためには、どうすればよいか、振り返り考えていきましょう。

・分からないことを質問する。  
 授業で分からなかったことはそのままにせず、友人や教員必ず質問するようにしましょう。

**【家庭学習について】**

・家庭では、復習に重点を置いて計画的に勉強をしてください。能率的に勉強するためには、1週間ごとの内容を見直し、大切な語句や公式を覚えておくのがよいでしょう。そのときには、「まとめノート」を作成する方法が効果的です。

また、定期テスト(中間・期末)については、少なくとも1週間前から取り組み、ノートと教科書で復習した後、副教材である「理科の学習3」の問題や、教科書に載っている問題を解いて理解できているか確認するようにしましょう。

1学期		2学期		3学期	
<b>【生命】</b> <b>生命の連続性</b> 1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子 3章 生物の種類の多様性と進化  <b>【エネルギー】</b> <b>運動とエネルギー</b> 1章 力の合成と分解 2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー	・生物の生殖方法や体が成長する仕組み、親と同じ種類の子が生まれてくる仕組みについて、分裂の過程や染色体の数に基づいて説明している。 ・遺伝の規則性を分離の法則に基づいて「形質」や「遺伝子」という言葉を用いて説明している。 ・生き物の種類の多様化と進化について、時代や環境の変化に基づいて説明している。  ・力の合成と分解についての身近な利用例を挙げ、力の矢印を用いて作図し説明することができる。 ・身近生活でみられる運動について、運動の速さや運動の向き、その運動を引き起こす力の向きなどを用いて説明している。 ・物体が持つエネルギーについて、「仕事」という言葉を使って説明することができる。	4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用  <b>【物質】</b> <b>化学変化とイオン</b> 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン 3章 酸・アルカリと塩  <b>【地球】</b> <b>宇宙を観る</b> 1章 地球から宇宙へ	・エネルギー保存の法則について、身近な例を挙げ、発生している様々なエネルギーを用いて説明している。 ・エネルギー利用上の課題と有効利用について、エネルギーの変換の様子や長所・短所をふまえ、資源や環境などへの影響も考えながら、自分たちができることを説明している。  ・電解質の水溶液に電流が流れた時の変化について、電気的な性質に基づいて、イオンや化学式を用いて説明している。 ・化学電池とはどのような装置か、金属イオンや電子の動きと化学エネルギーに基づきながら説明している。 ・中和とはどのような反応かを「酸性」「アルカリ性」という言葉を用いて説明し、この反応を用いた身近な生活での利用例について説明している。  ・地球が属する天体の集まり(太陽系)と、それ以外の宇宙について、空間の広がりに基づいて、図を用いて説明している。	<b>宇宙を観る</b> 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見え方  <b>【環境】</b> <b>自然と人間</b> 1章 自然界のつり合い 2章 さまざまな物質の利用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめざして	・地球や太陽、星の動きについて、時間的な変化(1日、1年など)や地球との位置関係に着目しながら、説明している。 ・月や金星が太陽や星座とは違った動きをしていることについて、それぞれの惑星や衛星の地球との位置関係や時間的な動きに着目して、説明している。  ・自然の中で生きる生物の「生活のつながり」について、食べ物や生物の数、また生物による物質の循環に基づいて、説明している。 ・現在の社会で天然の物質(木や鉄)に代わって、人工の物質(プラスチック)が普及していることについて、それぞれの物質の性質に基づいて、説明している。 ・科学技術の発展による、生活様式の変化について、昔と今の技術の変化による具体例をあげながら説明している。 ・現在の自然から受けている恩恵や生態系を維持していくために、どのようなことが大切かについて、現在の人間の活動が与える自然への影響や起きている災害に基づいて、説明している。 ・地球環境が保全され、将来の世代が必要なもの損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような社会を目指すために、自分にどのようなことができるか、3年間学習してきた理科の内容に基づいて、具体的な例を示すことができる。

第3学年	音楽	使用教科書	中学生の音楽2・3下・中学生の器楽	担当教員	平田 麻美
------	----	-------	-------------------	------	-------

<b>付けたい 資質・能力</b> <b>音楽表現力</b> <b>【身に付く力】</b> ・しっかりとした発声で仲間と豊かな響きで歌う力(歌唱・合唱) ・アルトリコーダーの運指を理解して演奏する力(器楽) ・音楽の良さを味わい、魅力を文章で表現する力(鑑賞) ・音符やリズムの組み合わせを工夫する力(創作) <b>【学習目標】</b> ・曲想と音楽の構造などとの関わりや音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした「音楽表現」をするために必要な歌唱・器楽・創作の技能を身につける。 ・「音楽表現」を創意工夫する力や、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く力を身につける。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、「音楽表現」活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	<b>評価の観点</b>	<b>評価の内容・方法</b>	<b>評価の場面・材料</b>
	<b>知識・技能</b>	<b>【知識】</b> 曲の背景や作曲家について、楽器の奏法についてなど、「音楽表現力」につながる知識がどのくらい身についているかを筆記テストで測ります。 <b>【技能】</b> 歌唱・合唱や器楽や創作について、授業で取り組んだことが「音楽表現力」としてどのくらい身についているかを実技テストで測ります。	実技テスト(歌唱・合唱、アルトリコーダー・創作) 筆記テスト(定期・単元別)
	<b>思考・判断・表現</b>	歌唱・合唱や器楽や創作では、「音楽表現」をどのように創意工夫しているかについて記述した内容を評価します。鑑賞活動では音楽を形づくっている要素をもとにしながら、音楽の良さや美しさを味わって聴き、曲の魅力などを記述した内容を評価します。	鑑賞曲の各ワークシート(歌舞伎・ブルタバなど) 合唱のワークシート(手紙など合唱曲)
	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	「音楽表現力」の向上に向けて知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習をどのように調整しながら学ぼうとしているかについて記述した内容を評価します。	振り返りシート(歌唱・合唱、鑑賞、アルトリコーダー、創作)

**【授業の進め方(授業のポイント)】**

- 歌唱・合唱や器楽では、曲ごとに学ぶテーマを決めて学習します。  
 実技テストも実施しますので、練習の成果を発揮できるように、練習を大切にしましょう。  
 また、お互いの表現を聴き合うこと、アドバイスを行うことで、「音楽表現力」を深めましょう。
- 鑑賞では、音楽の構造や雰囲気を感じ取りながらよさや美しさを味わい、曲の魅力を文章で表現しましょう。  
 鑑賞で学んだことを「音楽表現力」へとつなげましょう。
- 創作では、四分音符や四分休符、八分休符をつかってリズム創作をします。  
 それをもとに歌詞の創作、メロディーの創作とつなげていきます。音楽を構造的に捉え、「音楽表現力」の礎にしましょう。

**【家庭学習について】**

生活の中にあふれている音楽の中に、授業で学んだ曲や、学んだ曲とよく似た構造を持つ音楽が隠れています。どんな構造をした音楽なのか、という視点を持って聴くと、学習がさらに深まります。自分の好きな音楽、余り聴かないジャンルの音楽などさまざまあると思いますが、ぜひ学んだ知識を活かして聴いてみましょう。そのことが「音楽表現力」を高めることにつながります。

1学期		2学期		3学期	
<b>【歌唱・合唱】</b> 歌曲「花」 合唱曲「手紙」  <b>【鑑賞】</b> 「展覧会の絵」  <b>【アルトリコーダー】</b> 「ラヴァーズ・コンチェルト」  <b>【創作】</b> リズム・歌詞・メロディー	「花」…休符での呼吸について、ワークシートで自分の考えを記述します。 bの姿…休符について、自分の考えを記述する。 「手紙」…CDを聴いて正しい音程で歌うことを目指し、「息」の使い方についても工夫します。 bの姿…各フレーズごとに概ね正しい音程で歌える。 聴き合いで達成度を確認し、完成を目指している。  「展覧会の絵」…絵から受けた印象を元に作曲された曲です。絵がどのように音楽になっているのか、特徴や作曲者の意図を感じ取りながら自分の考えを記述します。 bの姿…絵やイメージをどんな音で表現しているのかについて、自分の考えを記述している。  「ラヴァーズコンチェルト」…新しい運指を使いながら、A1パートを最後まで吹けるように練習します。 bの姿…A1パートについて、条件をクリアしながら最後まで吹ける。  「創作」…1・2年生での創作の経験をもとにリズムと歌詞の創作完成を目指します。 bの姿…自分のレベルに応じたリズムを創作し、歌詞をつけている。	<b>【歌唱・合唱】</b> 合唱曲「あなたへ」 歌曲「蛍の光」  <b>【鑑賞】</b> 「ブルタバ」  <b>【アルトリコーダー】</b> 継続「ラヴァーズ・コンチェルト」  <b>【創作】</b> 継続 リズム・歌詞・メロディー	「あなたへ」…「声の響き」の知識を使い、自分で目標を決めて練習し合唱の完成を目指します。 「蛍の光」…卒業式を見据えて少しずつ歌唱に取り組みます。 bの姿…各フレーズごとに、概ね正しい音程で歌える。 聴き合いで達成度を確認し、完成を目指している。  「ブルタバ」…ブルタバ川の流れがどのように音楽で表現されているか、音楽の特徴や作曲の意図を感じ取りながら自分の考えを記述します。 bの姿…ブルタバ川の様子を音楽でどのように表しているか、自分の考えを記述している。  「ラヴァーズコンチェルト」…1学期から継続して練習し、実技テストを実施します。 bの姿…A1パートについて、条件をクリアしながら最後まで吹ける。  「創作」…1学期の作品をもとに、メロディー創作の完成を目指します。 bの姿…創作したリズムと歌詞にメロディーをつけている。	<b>【歌唱・合唱】</b> 合唱曲「旅立ちの日に」 歌曲「蛍の光」「校歌」  <b>【鑑賞】</b> 「ボレロ」  <b>【アルトリコーダー】</b> 「蛍の光」	「旅立ちの日に」…「声の響き」の知識を駆使し、パートで協働しながら完成を目指します。 「蛍の光」「校歌」…卒業式に向けて歌唱に取り組みます。 bの姿…各フレーズごとに、概ね正しい音程で歌える。 動画で達成度を確認し、完成を目指している。  「ボレロ」…曲がどのように構成されているか、リズムの特徴や楽器の重なりを感じながら自分の考えを記述します。 bの姿…曲の聴きどころについて、自分の考えを記述している。  アルトリコーダー「蛍の光」…フレーズや歌詞とメロディーの結びつきを理解します。 bの姿…A1パートについて、条件をクリアしながら最後まで吹ける。

第3学年	教科名	使用教科書	美術2・3(光村図書)	担当教員	藤川真奈美
------	-----	-------	-------------	------	-------

付けたい 資質・能力	思いや考えを伝える創造的な表現力	評価	評価の観点	評価の方法
<b>【身に付く力】</b> ・造形的な視点を豊かにするために必要な知識を身につけ、自分の意図をよりよく表現するために造形的に表す力 ・表現の活動、鑑賞の活動を通して、作りたいものを豊かに発想し、構想を練ったり美術に対する見方や感じ方を広げていく力 ・もの作りの楽しさを味わい、主体的に創造していく力	<b>【学習目標】</b> ・画材や素材の使い方や、自分の表現に合う効果的な使い方を知り、自分の制作意図に合った作品になるよう表現を工夫する。 ・作品が他者に与える影響について考え、自分の作品に生かす。 ・芸術作品の良さを味わい、それをわかりやすく表現することに挑戦する。	<b>知識・技能</b>	・創作に必要な知識と技能を身につけ、自分の制作に生かしているか。 ・自分の作りたいものを、工夫して創造的に作っているか。	作品 ワークシート 定期テスト
		<b>思考・判断 ・表現</b>	・自ら作品のテーマやアイデアを発想し、それを深めて制作しているか。 ・作品を鑑賞したり他の人の意見を知るなどして、良さや新しい発見を感じ取れるか。	作品のデザインやアイデア 定期テスト ワークシート
		<b>主体的に学習に 取り組む態度</b>	・もの作りを楽しみ、丁寧に仕上げようと工夫して、資料の収集、制作活動の計画や作品の完成に向けて、創意工夫が出来ているか。 ・自分の目標に向かって、新たな気づきや学びを得ているか。 ・学習計画に沿って、自己調整しながら作品作りに取り組んでいるか。	作品への取り組みの様子 ワークシート 振り返りシート

<b>【授業の進め方(授業のポイント)】</b> ・様々な芸術作品を鑑賞し、自身の制作を工夫する。 (こんな作品を作りたい、どうやってつくるかなど、探究して作品を作っていく) ・さまざまな感性や表現があることを知り、表現を楽しんだり深めたりする。 ・授業の中間、後半に学習を振り返り、気づきや思考の深まりを具体的に記録していく。 ・一人一人目標を持ち、表現を楽しみながら、自己の力を伸ばせるように工夫する。	<b>【家庭学習について】</b> ・作りたいもののイメージを持ち、日常生活の中でアンテナを張って過ごす。 ・作りたいものが決まったら、情報や資料を積極的に収集する。
--	---

1学期	2学期	3学期
<b>鑑賞「世界の名画」</b> 作品の特徴と時代背景、作品の魅力について学び、作者や作品の魅力を同年代の若者に伝えるレポートをつくる。  <b>模写</b> 模写を通して、作者の描画や彩色の工夫について学び、各自で目標を設定して制作する。	<b>鑑賞「ピカソ／岡本太郎／草間彌生」</b> ・「キュビズム」について学習し、ピカソの作品の意図について考える。また現代美術の鑑賞を通して、美術の「新たな価値」について考える。  <b>ゴム判の制作</b> デザインを工夫して判子を作り、ゴム判の特徴を生かして、暮らしを豊かにするオリジナルの日用品を制作する。	<b>鑑賞「社会の中のアート」</b> 「私たちに問いかける芸術作品」から、作品に込められたメッセージを考える。  <b>あかりが作る空間</b> 光と影を使った表現を工夫し、グループで映像作品を作る。
・伝える相手や内容などから自分としての意味や価値を見出し、作者や作品の魅力が伝わるレポートを工夫して仕上げている。  ・造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と工夫について考え、描いてみることで見方や考え方を広げている。	・作者の生き様、表現の意図と創造的な工夫、時代背景などについて考え、美術の「新たな価値」についての見方や感じ方の変化について学んだことともに、ワークシートに自分の考えをまとめることができる。  ・使う目的や条件などをもとに、判の良さを生かしたデザインを考え、自分なりの工夫をして作品を制作している。	・生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考え、学んだことをもとに自分の考えを言葉で表現している。  ・光の美しさや表現の特性を感じ取り、グループワークを通して、光と影の特性を生かした効果的な表現を考えて作品をつくっている。

第3学年	保健体育	使用教科書	新しい保健体育	担当教員	荒木 宣・岡崎 令依
------	------	-------	---------	------	------------

付けたい 資質・能力	課題を解決する力	評価の観点	評価の内容・方法	評価の場面・材料
<b>【身に付く力】</b> 基礎的・基本的な体力 自身の目標に向けて挑戦する力 仲間と協力して課題を解決する力 健康的な生活を送るための力		知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		思考・判断 ・表現	知識や技能を活用し、ペアやグループでの観察やタブレットの動画を見て、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えていくかを観察
		主体的に学習に 取り組む態度	各領域に積極的かつ自主的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服のために粘り強く練習に取り組む姿や、記録の向上に努めている姿、仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健プリントの記述内容

**【授業の進め方(授業のポイント)】**

- 準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。
- 基礎的・基本的な技術を習得し、試合や記録会で身に付けた力を発揮できるようにする。
- 話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。

**【家庭学習について】**

保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康的な生活を送ること。

1学期		2学期		3学期	
<b>【体育】</b> 体づくり運動 新体カテスト ・自身の体力の課題を知る。 集団行動 ・整列、準備運動等の確認。		<b>【体育】</b> 器械運動 マット運動か跳箱運動の選択 ・マット運動では、自身に合った技の構成を選び、美しく演技ができる。跳び箱運動では、自分に合った高さで、正しく、開脚跳び、抱え込み跳び、台上前転または前方倒立回転跳びができる。 ・ペアと協力し、自身の課題を見つけ、修正しようとしている。		<b>【体育】</b> 球技 サッカー、バスケットボール ・今まで身につけた技術を生かし、パス、ドリブル、シュートができる。	
陸上競技 ハードル走・走り高跳び・走り幅跳び ・ハードルでは9秒台以上、高跳びでは100cm、幅跳びでは250cm跳ぶことを目指し、自身の助走や踏切、ハードリングのフォームを修正しようとしている。		ダンス 創作ダンス ・仲間と協力し、創意工夫した発表ができる。		<b>【保健】</b> 6章 健康な生活と疾病の予防③ ・感染症の感染経路や予防法を知り、自身の考えをまとめることができる。	
球技 ソフトボール ・今まで身につけた技術を生かし、ゲームで捕球、送球、打撃ができる。 ・チームの課題を見つけ、自分の考えを伝えることができる。		柔道 ・正しい受け身ができる。 ・ペアと協力して正しく投げ技の約束練習ができるようにするために、自分や他者の課題を見つけ、伝えることができる。		<b>【体育理論】</b> 3章 文化としてのスポーツの意義 現代社会におけるスポーツの文化的意義について知り、今後どのようにスポーツと関わっていくかを考え、実践できる。	
		長距離走 ・自身の課題を分析し、9分台以上を目指す。			
		陸上競技 ・自身の健康を守るために、環境がどのように関わっているのか、飲料水や空気をどのように管理するのかを知り、自身の考えをまとめることができる。			
		<b>【保健】</b> 5章 健康と環境			

第3学年	保健体育	使用教科書	新しい保健体育	担当教員	小曾根 雪乃
------	------	-------	---------	------	--------

<b>付けたい 資質・能力</b>	<b>課題を解決する力</b>	評価	評価の観点	評価の方法
		<b>知識・技能</b>	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		<b>思考・判断 ・表現</b>	知識や技能を活用し、ペアやグループでの観察やタブレットの動画を見て、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えていくかを観察
		<b>主体的に学習に 取り組む態度</b>	各領域に積極的かつ自主的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服のために粘り強く練習に取り組む姿や、記録の向上に努めている姿、仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健プリントの記述内容

**【授業の進め方(授業のポイント)】**

- ・準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。
- ・基礎的・基本的な技術を習得し、試合や記録会で身に付けた力を発揮できるようにする。
- ・話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。

**【家庭学習について】**

保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康な生活を送ること。

1学期		2学期		3学期	
<b>【体育】</b> 体づくり運動  <b>器械運動</b>  <b>球技</b>	新体カテスト ・自身の体力の課題を知る。 集団行動 ・集合隊形・整列の確認 マット運動か跳び箱運動の選択 ・マット運動では、自身に合った技の構成を選び、美しく演技ができる。跳び箱運動では、自分に合った高さで、正しく、開脚跳び、抱え込み跳び、台上前転または前方倒立回転跳びができる。 ・ペアと協力し、自身の課題を見つけ、修正しようとしている。  バレーボール ・今まで身に付けた技術を生かし、ゲームを展開することができる。 ・チームの課題を見つけ、自分の考えを伝えることができる	<b>【体育】</b> 陸上競技  <b>武道</b>  <b>陸上競技</b>  <b>ダンス</b>  <b>【保健】</b> 5章 <b>健康と環境</b>	ハードル走 走り幅跳びか走り高跳びの選択 ・自分自身の助走や踏切、ハードリングのフォームを修正し、記録に向けて取り組んでいる。  柔道 ・正しい受け身ができる。 ・ペアと協力して正しく投げ技の約束練習ができるようにするために、自分や他者の課題を見つけ、伝えることができる。  長距離走 ・ペースを守って走り、記録を向上させる。 創作ダンス・現代的なリズムのダンス  ・リズムの特徴を捉え、リズムに乗って全身で踊ることができる。  ・自身の健康を守るために、環境がどのように関わっているのか、飲料水や空気をどのように管理するのかを知り、自身の考えをまとめることができる。	<b>【体育】</b> <b>球技</b>  <b>【保健】</b> 6章 <b>健康な生活と疾病の予防③</b>  <b>【体育理論】</b> 3章 <b>文化としてのスポーツの意義</b>	バスケットボール ・今まで身に付けた技術を生かし、ゲームを展開することができる。 ・チームの課題を見つけ、自分の考えを伝えることができる。  サッカー ・ゲームの基本的な技能を身に付け、ゲームを展開する。  ・感染症の感染経路や予防法を知り、自身の考えをまとめることができる。  現代社会におけるスポーツの文化的意義について知り、今後どのようにスポーツに関わっていくかを考え、実践できる。

第3学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology	担当教員	大槻 晃央
------	-----	-------	-------------------------------	------	-------

<b>付けたい 資質・能力</b>	社会の変化に対応する力 ～情報の高度化・多様化する社会の中で～	評価	評価の観点	評価の方法	
		<b>【身に付く方】</b> (1)情報通信ネットワークの構成について理解し、情報機器を正しく作動させることができる。 (2)情報機器についての知識が増え、いくつかのソフトウェアが使用できる。 (3)生物育成の学習を通して、家庭菜園ができる知識や技能が習得できる。	<b>知識・技能</b>	<知識>コンピュータの構成や機能についての知識を身に付けている。作物、動物及び水産生物の成長、生態についての知識を身に付けている。 <技能>プレゼンテーションソフトウェアにおいて、図式化を意識した資料作りができてきているか。プログラミングにおいて、自分の構想した通りの作品ができてきているか。	定期テスト 小テスト ソフトウェアの操作 (PowerPoint) HTML (プログラミング)
			<b>思考・判断 ・表現</b>	情報及び生物育成の技術に込められた工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気付くことができる。 →プレゼンテーションソフトでの資料作りにおいて、見やすさを考えたレイアウトが意識できているか。生物育成において、作物の観察・分析ができてきているか。	定期テスト 振り返りシート (内容) 豆苗観察レポート (内容)
			<b>主体的に学習に 取り組む態度</b>	進んで情報及び生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 →身の回りにあるネットワークや生物育成の技術を知り、これまでどのような問題を解決してきたかを調べたり、実習に意欲的に参加しているか。	プリントの記述 実習感想シート (内容) 振り返りシート (内容)
<b>【学習目標】</b> ○ソフトを利用し、情報を適切に処理することができる。また、その結果を図式化して表現することができる。 ○コンピュータでデータ処理の方法を学ぶ。またプログラムを作製して制御することができる。 ○生物育成技術を学び、育成生物の特性が、生物育成技術と深く関わっていることを理解する。					

**【授業の進め方(授業のポイント)】**

○板書を丁寧にしながら、授業内での補足や説明をしっかりとメモしていくこと。  
 →大事な単語をプリントに記入する。自分の考えを書くスペースは間違っても良いので、そのとき考えたことを記入する。補足として、例え話や由来などを話すので、メモ欄や空いたところにメモをとれば、見返したときにわかりやすいプリントに仕上がる。

○実習では、使い方の説明や教室モニターの作品例を参考にすること。  
 →操作の説明プリントをしっかりと見る、教室のモニターで説明したり、作品例を映し出すので、参考にすること。わからないことは積極的に質問すること。

○振り返りカードを丁寧に記入すること。  
 →授業で学んだこと、疑問に思ったこと、質問などを記入しておけば、チェックした際、質問にコメントできたり、次の授業で全体に補足をしたり、個別で机間指導するなど、教師側も授業改善や修正ができます。各週の授業なので、実習のときには、次回の目標や予定を記入しておくこと、どの作業から始めれば良いかがすぐに思い出せて、スムーズに作業に取りかかれる。

**【家庭学習について】**

○プリントの単語だけを見るのではなく、説明できるくらい意味も確認しておく。  
 →プリントに書いた補足や由来のメモが活きる。

○実習で使ったソフトの使い方、決まりなどは必ず振り返っておくこと。  
 →定期テストや次回の実習に活かせる。

○高校の説明会などで利用されているスライドの見やすさや伝わりやすさを意識して見てみる。日常生活の中で、作物を育てる時期を考えようとする。スーパーで売られている野菜や果物の値段などを見る。→学習への理解が深まる。

1学期		2学期		3学期	
<b>(1)生活や社会を支える情報の技術</b> ①情報通信ネットワークの仕組み ②情報の技術の工夫を読み取ろう ③コンテンツを構想しよう	→情報通信の基礎的な仕組みの必要性について理解し、なぜ情報がやりとりできるのかを説明することができる。	<b>(1)生活や社会を支える生物育成の技術</b> ①動物を育てる技術 ②水産生物を育てる技術	→育成環境を工夫して、目的に合わせたプラウトを育成する技能を身に付けている。	<b>(3)計測・制御に関するプログラミングによる問題の解決</b> ①計測・制御システムとは何だろう ②計測・制御システムを構想しよう ③計測・制御システムのプログラムを制作しよう	→HTMLにおいて、基本的な仕組みやプログラムを理解し、自分で考えたHPが作成できる。 →入出力されるデータの流れを基に、計測・制御システムを構想する力を身に付けている。
<b>(1)生活や社会を支える生物育成の技術</b> ④生物育成の技術とは何だろう ⑤作物の育成環境を調節する技術 ⑥作物の成長を管理する技術	→育成環境を工夫して、目的に合わせたプラウトを育成する技能を身に付けている。	<b>(2)生物育成の技術による問題の解決</b> ③問題を発見し、課題を設定しよう ④成長段階に合わせて適切に育成しよう	→スマート農業について「技術の見方・考え方」を働かせて、問題を発見し、自分なりの課題を設定する力を身に付けている。	<b>技術分野の学習を終えて</b> ⑦学んだことを社会に生かす	→3年間の学習を振り返り、社会に出て生活する中で必要な内容を理解している。
		<b>(3)社会の発展と生物育成の技術</b> ⑤これからの生物育成の技術	→スマート農業について理解し、その技術がどのような問題を解決しているか理解している。		

第3学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 家庭分野(東京書籍)	担当教員	中辻 佳子
------	-----	-------	---------------------	------	-------

付けたい 資質・能力	社会の変化に対応する力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	生活の衣・食・消費生活についての基礎的な理解とそれらに係る技能、家族や地域との関わりについての理解を図る。	定期テスト 実習 作品 レポート
思考・判断 ・表現	自分事として問題を見いだして課題を設定し、より良くする方法を考察し、実践・改善し論理的に表現したり発表するなど、これからの生活を解決する力を身に付けている。	定期テスト 作品 レポート		
主体的に学習に 取り組む態度	家族や地域の人と協働し粘り強く取り組み、振り返りを行いながらよりよい生活の実現に向けて、生活を創造しようとする実践的な力を身に付けている。	定期テスト レポート 振り返りシート		

【授業の進め方(授業のポイント)】

- ・授業の目標を確認する。
- ・学習内容は、自分の生活に当てはめながら考えたり、課題を見つけたりする。
- ・課題に集中して取り組み、授業時間内に提出や完成を目指す。自分らしさを入れる。
- ・苦手な活動であっても見本をよく見たりグループで交流したりするなど自己調整して、学びを進める。
- ・実習の欠席について、ロイロノートの資料箱に途中見本があるので、課題を進め後日提出する。
- ・授業の振り返りをする。

【家庭学習について】

- ・学習する分野において、家族や地域の人がしていることを、見てみる、聞いてみる、やってみる。
- ・新聞、ニュース、本、ネットなどを、興味を持って読んだり見たりする。
- ・学んだことを実践し、失敗しても原因を考えてもう1回チャレンジする。
- ・教科書のQRコードを読み込んで理解を深める。
- ・ロイロノートで配布された授業の板書や使用した資料を見直す。

1学期		2学期		3学期	
4編1章 私たちの消費生活	○消費生活 「計画的な金銭の管理」 「消費者トラブルとその対策」 「権利と責任」 「省エネと持続可能な社会」 bの姿・・・ニーズとウォンツを判断し、悪質商法の手口に気付き、具体的に対策ができる。	5編2章 幼児の生活と家族	○幼児の生活と家族 「幼児の1日の生活、生活習慣」 「幼児にとつての遊び」 bの姿・・・中学生と幼児の生活を比較しながら、発達段階に応じた遊びの大切さに気付く。  「布のおもちゃを作ろう」(製作) 「子どもにとっての家族」 bの姿・・・フェルトを使って、幼児が遊ぶことを思い描きながら、手の小ささや遊び方を考えたおもちゃを丈夫に製作することができる。	5編1章 家族・家庭と地域	○家族と地域 「家族・家庭の機能」 「中学生としての自立」 bの姿・・・生活を支える家族の機能について理解し、中学生の自分にできることを考え工夫することができる。
5編2章 幼児の生活と家族	○幼児の生活と家族 「幼い頃を振り返ろう」 「幼児の心身の成長」 「幼児との関わり方の工夫」(保育実習) bの姿・・・幼児の体と心の発達の特徴が理解し、成長に合わせた関わり方ができる。			5編3章 これからの家族と地域	○これからの家族と地域 「高齢者の体の特徴」 「高齢者との関わり」 「地域との協働を目指して」 bの姿・・・高齢者の体の特徴を踏まえて、関わり方を工夫できる。中学生として地域の人々との関わり方を考え、協働する方法を考える。

第3学年	教科名	使用教科書	三省堂 ニュークラウン3	担当教員	秦 水帆子
------	-----	-------	--------------	------	-------

付けたい 資質・能力	自分の思いや考えを基に創造し、伝える 力	評価	評価の観点	評価の方法
【身に付く力】 聞くこと・・・必要な情報・概要・要点を聞き取ることができる。 読むこと・・・必要な情報・概要・要点を読み取る、または捉えることができる。 話すこと〔やりとり〕・・・関心のある事柄について、即興で伝え合うことができる。 話すこと〔発表〕・・・関心のある事柄について、即興で話すことができる。 書くこと・・・関心のある事柄について、正確に書くことができる。		知識・技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題について、その内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする技能を身に付けている。	定期テスト パフォーマンステスト
		思考・判断 ・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や概要、要点を聞いたり、読んだりして捉えている。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話したり、書いたりしている。	定期テスト パフォーマンステスト
		主体的に学習に 取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、言語活動を通して主体的に伝えようとしている。	パフォーマンステスト リフレクション（振り返り）

【授業の進め方（授業のポイント）】

- ①スモールトーク等で単元または本時に関連づかせた関心のある出来事や、日常または社会の出来事について、個別または協働的に考えながら話したり、書いたりすることで表現力を身に付ける。
- ②単元または本時のゴール（目標）の共有を生徒とともにに行い、見通しを持って授業に取り組む。
- ③実際のコミュニケーションにおいて活用される知識・技能を身につけるために、目的・場面・状況に応じて自分の考えを形成したり、深化させたり、さらに表現を選択したりして「論理的に表現」することを学ぶ。
- ⑤ふり返り：ゴール（目標）に照らし、どんなことができるようになったのかを振り返り、さらに次にどんなことができるようになりたいか、展望を持たせる。

【家庭学習について】

個別最適な学びを充実するため、

- テラトークを活用し、五領域を活用できる課題を提示する。（学習時間の把握）
- 生徒自らが主体的に取り組めるような「自身の課題」にもとづいた課題に取り組む。

1 学期		2 学期		3 学期	
Lesson 1 Join Us ・現在完了形（経験・完了）	海外の中学生に向けて、最近夢中になっていることをこれまでに経験したことなどについて、相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続することができる。	Lesson 4 Bollywood Movies ・後置修飾（現在分詞・過去分詞）	身の回りのものについて、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身につけている。	Lesson 7 Design for Change ・仮定法過去（if）	「もしタイムマシンがあったら」というテーマについて、相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続することができる。
Lesson 2 The Power of Music ・現在完了の疑問文、否定文	習い事や趣味、部活動について、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身につけている。	Lesson 5 Translating Culture ・関係代名詞（who, which主格）	ゲームをする時間や、寝る時間について話し合う日本語の特定の表現について、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身につけている。	Lesson 8 For Our Future ・関係疑問（SVO）	国立公園のガイドの説明を聞いて、要点を捉えることができる。
Lesson 3 Cranes for Peace ・help + A + 原形動詞	相手に聞いてほしい曲について、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身につけている。	Lesson 6 Being Fair ・want + A + to + 動詞の原形	手伝ってほしいことについてなどを用いて、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身につけている。	Project 3 10年後の自分へのメッセージ	メッセージ動画を作るために、現在の自分の状況や10年後の自分に質問したいことについて、自分の考えや気持ちをつけ加えて、まとまりのある内容を話すことができる。